Oriental Land Co.,Ltd.

2016年3月期
第2四半期決算説明会

2015年10月29日

株式会社オリエンタルランド

プレゼンター

株式会社オリエンタルランド

執行役員　経理部長　　吉田　謙次

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅰ. 決算概要

執行役員　経理部長
吉田　謙次

1. 上半期実績（前年同期比較）

Ⅰ. 決算概要

連結損益計算書	前年同期（億円）	実績（億円）	増減（億円）	増減率
売上高	2,227	2,220	△6	△0.3%
テーマパーク事業	1,844	1,825	△18	△1.0%
ホテル事業	297	305	8	3.0%
その他の事業	86	88	2	3.2%
営業利益	539	521	△18	△3.4%
テーマパーク事業	461	439	△21	△4.7%
ホテル事業	68	71	2	3.8%
その他の事業	9	9	0	8.5%
経常利益	549	532	△16	△3.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	363	359	△3	△1.1%

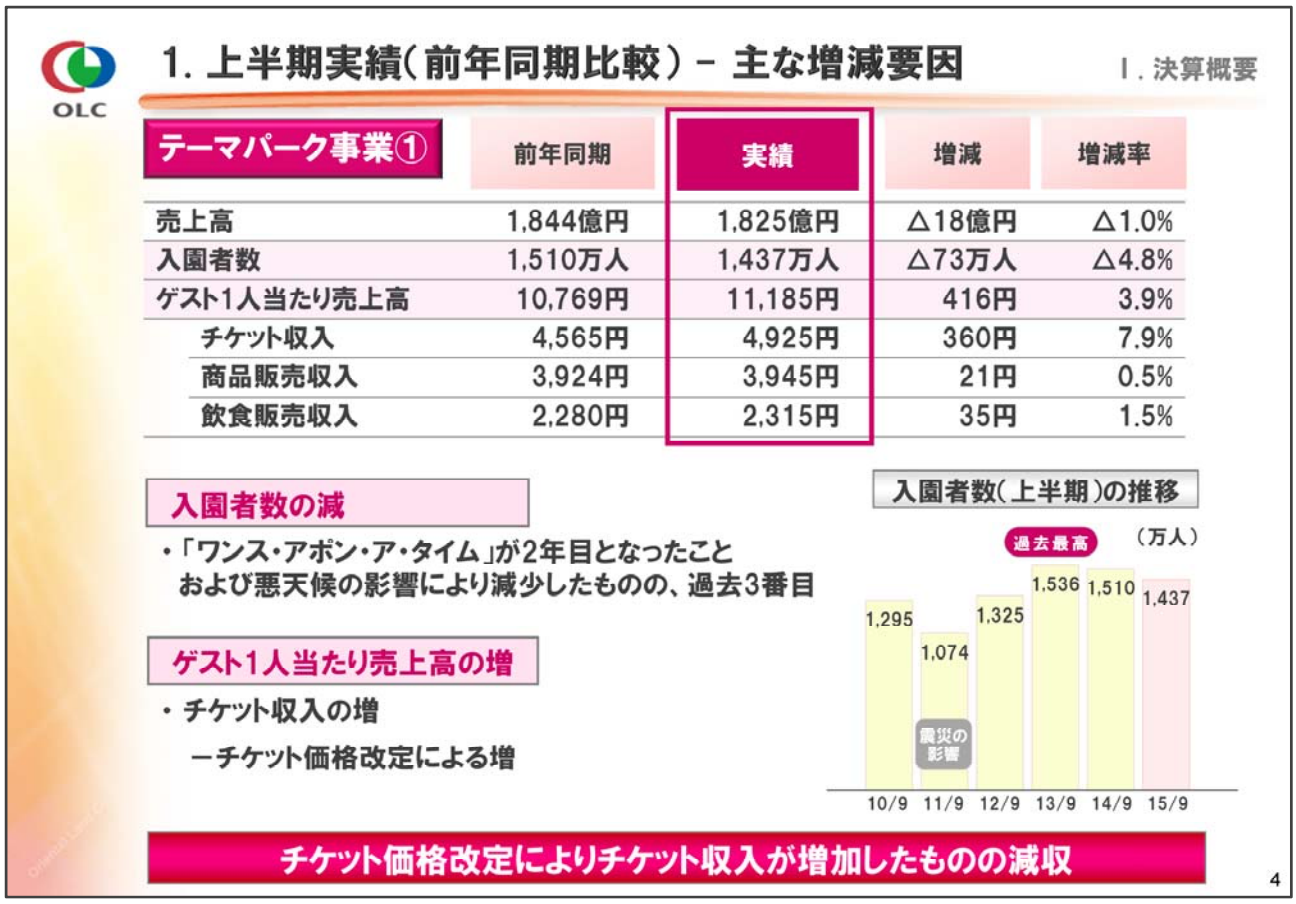
テーマパーク事業が好調だった前年同期に及ばず、減収減益

3

1. 上半期実績（前期同期比較）

売上高は6億円減の2,220億円、営業利益は18億円減の521億円、経常利益は16億円減の532億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億円減の359億円となりました。

テーマパーク事業が好調だった前年同期に及ばず、減収減益となりました。



<u>テーマパーク事業①</u>

テーマパーク事業の売上高は、18億円減の1,825億円となりました。

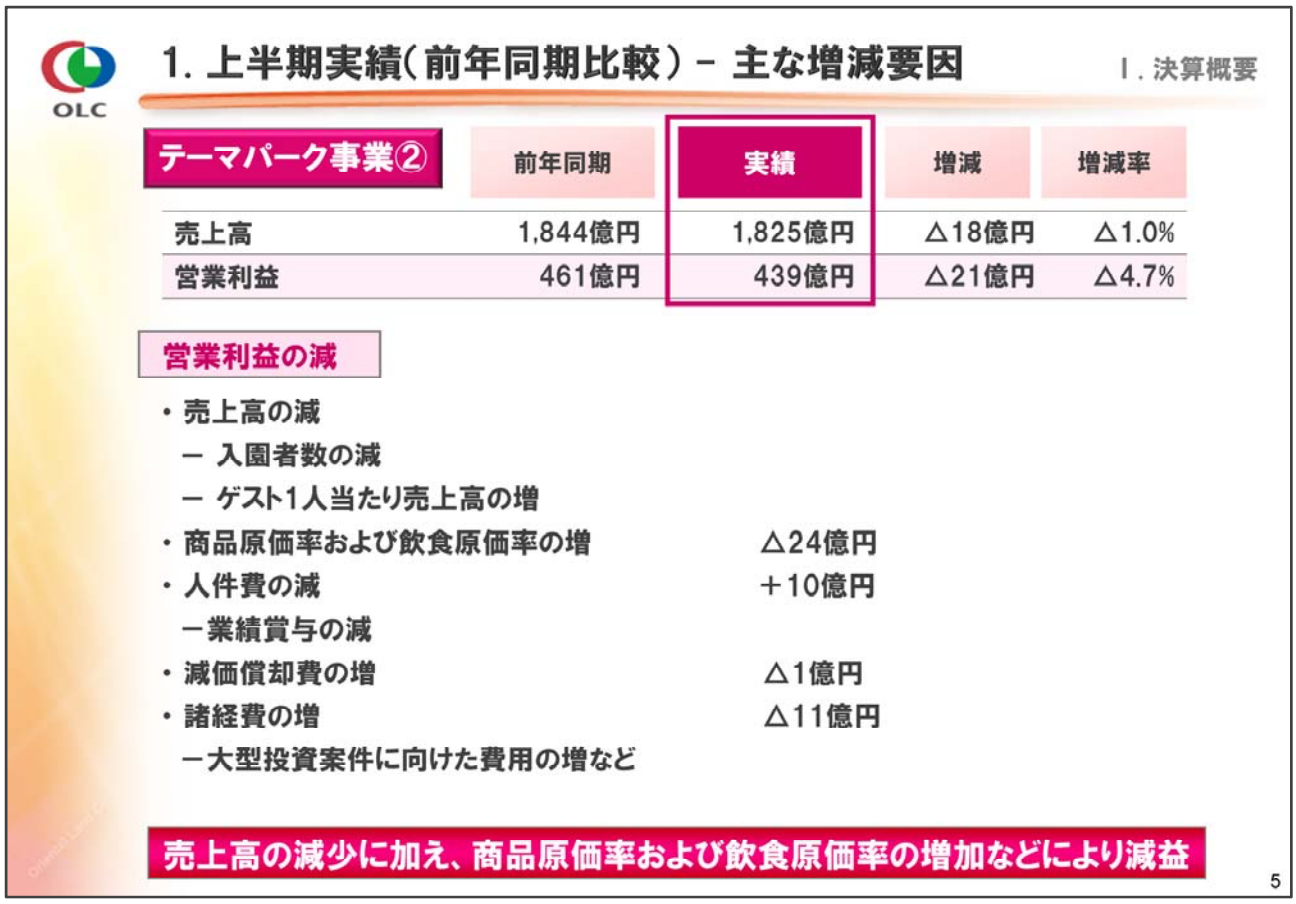
入園者数は、昨年5月にスタートした「ワンス・アポン・ア・タイム」が2年目となったことや悪天候の影響により、前年同期を下回り、1,437万人となりました。

ページ右下の「入園者数の推移」のグラフをご覧ください。

こちらでは、上半期のテーマパーク入園者数の経年推移を示しております。

当上半期は、前年同期、前々年同期に及ばなかったものの、過去3番目の入園者数となりました。

ゲスト1人当たり売上高は、本年4月1日に実施したチケット価格の改定により、チケット収入が360円増加したことから、前年同期に対して416円増加し、11,185円となりました。



<u>テーマパーク事業②</u>
テーマパーク事業の営業利益は、21億円減の439億円となりました。
これは、入園者数の減少が主な要因です。

加えて、コストの増減がありますので、説明します。
資料上、コストにおける△表示は、営業利益に対するマイナスの影響を示しています。

商品原価率および飲食原価率は、為替の影響などにより増加し、コストが24億円増加しました。

人件費は、業績賞与の減少により、10億円減少しました。

減価償却費は、1億円増加しました。

諸経費は、主に、大型投資案件に向けた費用の増加により、11億円増加しました。
「諸経費」は、前四半期まで「固定経費・諸経費」の名称でご説明していたものです。

1. 上半期実績（前年同期比較）－ 主な増減要因

Ⅰ. 決算概要

ホテル事業	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	297億円	305億円	8億円	3.0%
営業利益	68億円	71億円	2億円	3.8%

・平均客室単価の増、客室改装による費用の増など

客室稼働率および平均客室単価一覧

	東京ディズニーランドホテル		東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ		ディズニーアンバサダーホテル	
	前年同期	実績	前年同期	実績	前年同期	実績
客室稼働率	90%台後半	90%台後半	90%台後半	90%台前半	90%台前半	約90%
平均客室単価	5万円台半ば	5万円台半ば	5万円台半ば	5万円台半ば	約5万円	約5万円

売上高の増加により増益

その他の事業	前年同期	実績	増減	増減率
売上高	86億円	88億円	2億円	3.2%
営業利益	9億円	9億円	0億円	8.5%

売上高・営業利益は、ほぼ前年同期並み

6

ホテル事業

ホテル事業の売上高は、平均客室単価の増加により8億円増の305億円となりました。
営業利益は、客室改装による費用が発生したことから、2億円増の71億円となりました。

ページ中段には、ディズニーホテルの客室稼働率および平均客室単価一覧を掲載しております。一覧の平均客室単価は、3ホテルとも前年同期と同じ表記ですが、同一レンジの中で増加しています。

その他の事業

その他の事業は、売上高および営業利益が、ほぼ前年同期並みとなりました。

2. 上半期実績（期初予想比較）

Ⅰ. 決算概要

連結損益計算書	期初予想（億円）	実績（億円）	増減（億円）	増減率
売上高	2,276	2,220	△56	△2.5%
テーマパーク事業	1,887	1,825	△61	△3.3%
ホテル事業	302	305	3	1.0%
その他の事業	86	88	2	2.6%
営業利益	520	521	0	0.1%
テーマパーク事業	446	439	△6	△1.5%
ホテル事業	65	71	5	8.6%
その他の事業	8	9	1	18.8%
経常利益	529	532	3	0.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	356	359	2	0.8%

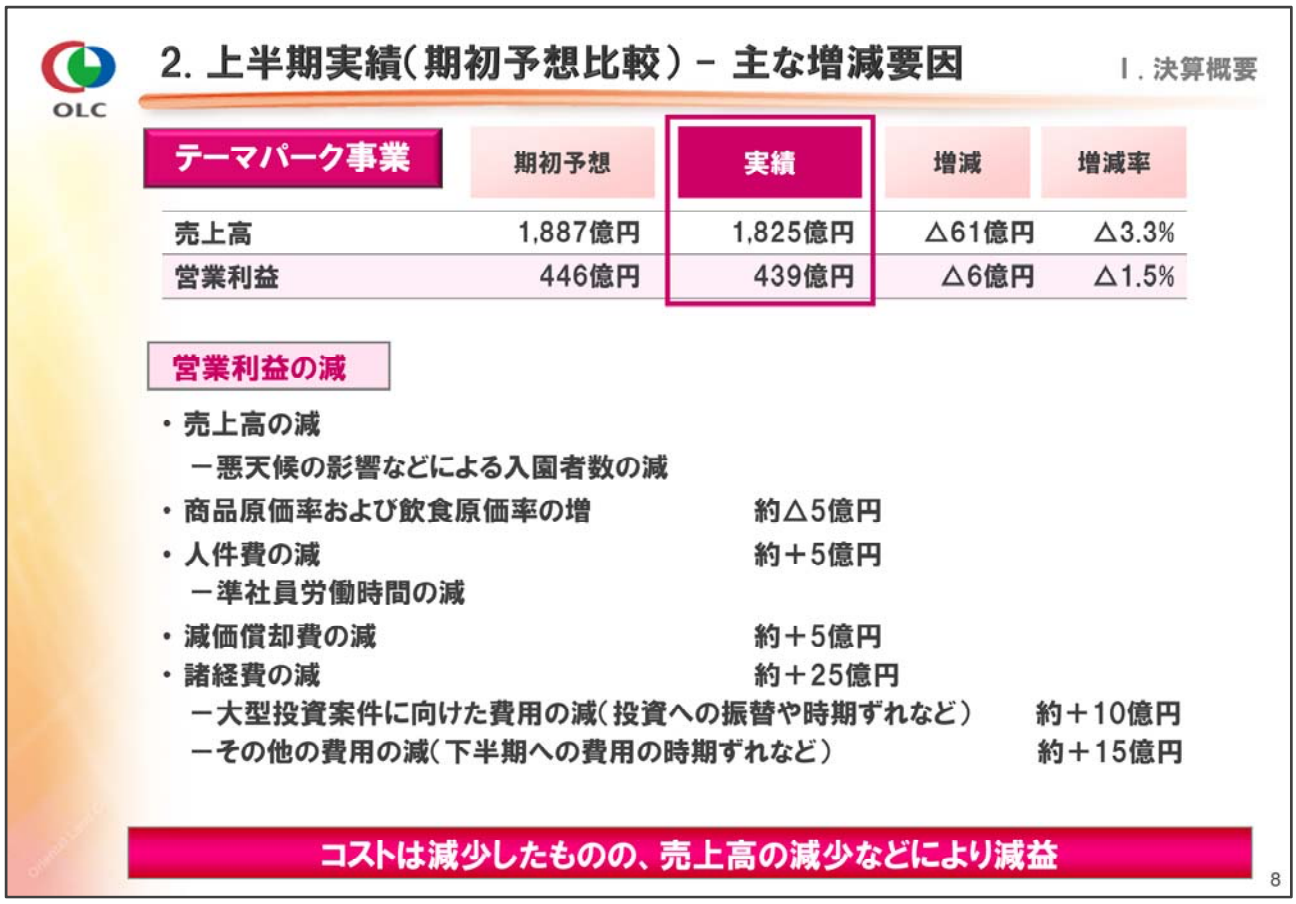
テーマパーク事業で減収減益だったものの、営業利益は期初予想を上回る

7

2. 上半期実績（期初予想比較）

売上高は、期初予想に対して、2.5%、56億円減となりました。テーマパーク事業が期初予想を下回ったことが主な要因です。

営業利益は、テーマパーク事業でコストが減少したことから、期初予想を上回りました。



<u>テーマパーク事業</u>
テーマパーク事業の営業利益は、6億円減の439億円となりました。
これは、売上高の減少が主な要因です。

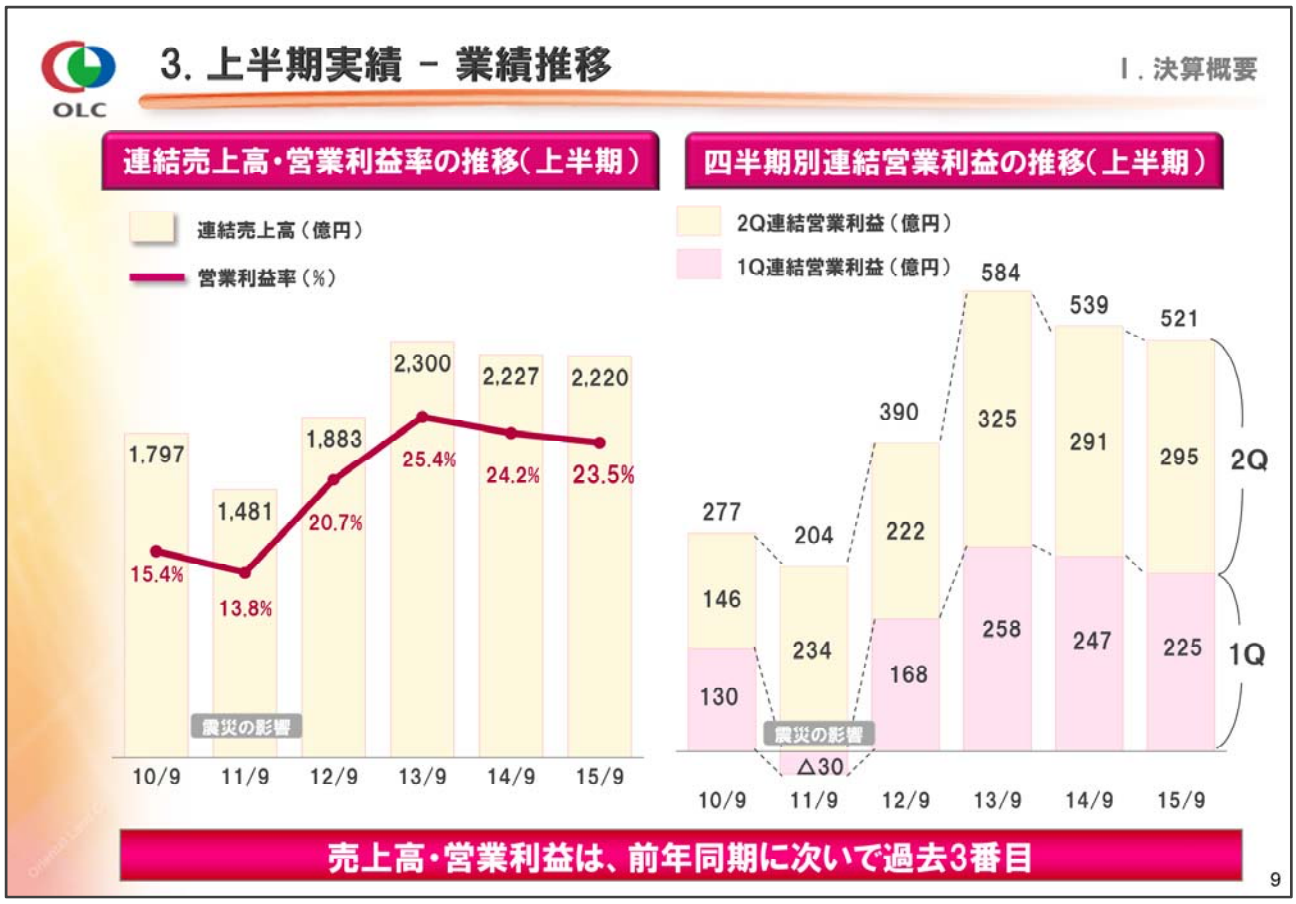
入園者数は、悪天候の影響などにより、減少しました。ゲスト１人当たり売上高は、ほぼ期初予想の通りでした。

一方で、コストは減少しました。
商品原価率および飲食原価率は、為替の影響などにより増加し、合わせて約5億円のマイナスの影響となりました。

人件費は、準社員労働時間の減少により、約5億円のプラスの影響となりました。

減価償却費は、償却開始時期の後ろ倒しなどにより、約5億円のプラスの影響となりました。

諸経費は減少し、約25億円のプラスの影響となりました。
このうち、大型投資案件に向けた費用において、投資への振替や時期ずれなどが約10億円ありました。その他の費用においても、下半期への費用の時期ずれなどが約15億円ありました。



3.　<u>上半期実績ー業績推移</u>

左側の「連結売上高・営業利益率の推移」のグラフにあるように、当上半期の売上高は2,220億円、営業利益率は23.5%と、いずれも上半期として前年同期に次いで過去3番目となりました。

右側の「四半期別連結営業利益の推移」のグラフをご覧ください。
第1四半期、第2四半期ともに、高い水準を維持しております。

4. 通期予想（前期比較）

Ⅰ. 決算概要

連結損益計算書	2015/3 実績（億円）	2016/3 予想（億円）	増減（億円）	増減率
売上高	4,662	4,703	40	0.9%
テーマパーク事業	3,876	3,906	30	0.8%
ホテル事業	610	622	11	1.9%
その他の事業	176	174	△ 2	△ 1.2%
営業利益	1,106	1,060	△ 45	△ 4.1%
テーマパーク事業	956	920	△ 36	△ 3.8%
ホテル事業	131	125	△ 5	△ 4.2%
その他の事業	16	13	△ 2	△ 18.3%
経常利益	1,104	1,073	△ 31	△ 2.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	720	722	1	0.2%
テーマパーク入園者数	3,138万人	3,040万人	△ 98万人	△ 3.1%
ゲスト1人当たり売上高*	10,955円	11,360円	405円	3.7%
設備投資額*	370億円	697億円	327億円	88.5%
減価償却費*	346億円	368億円	22億円	6.5%

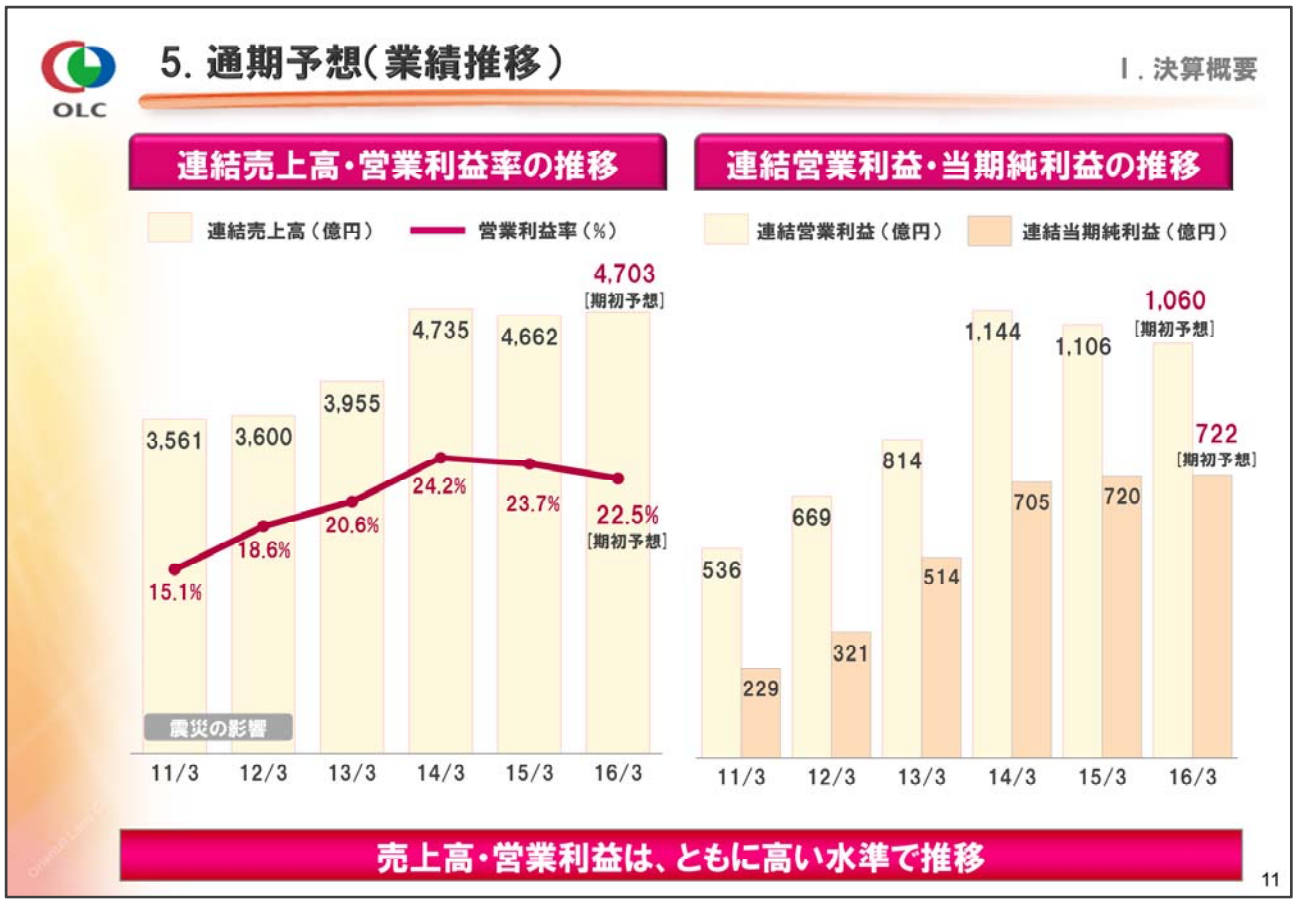
＊ 内訳 は、「決算補足資料」をご覧ください

通期予想は、期初予想を据え置き

10

4. 通期予想（前期比較）

当上半期は、ここまでご説明したとおり推移したものの、第3四半期がテーマパーク入園者数のボリュームゾーンであることなどを踏まえ、現時点では、通期の業績予想を据え置いております。



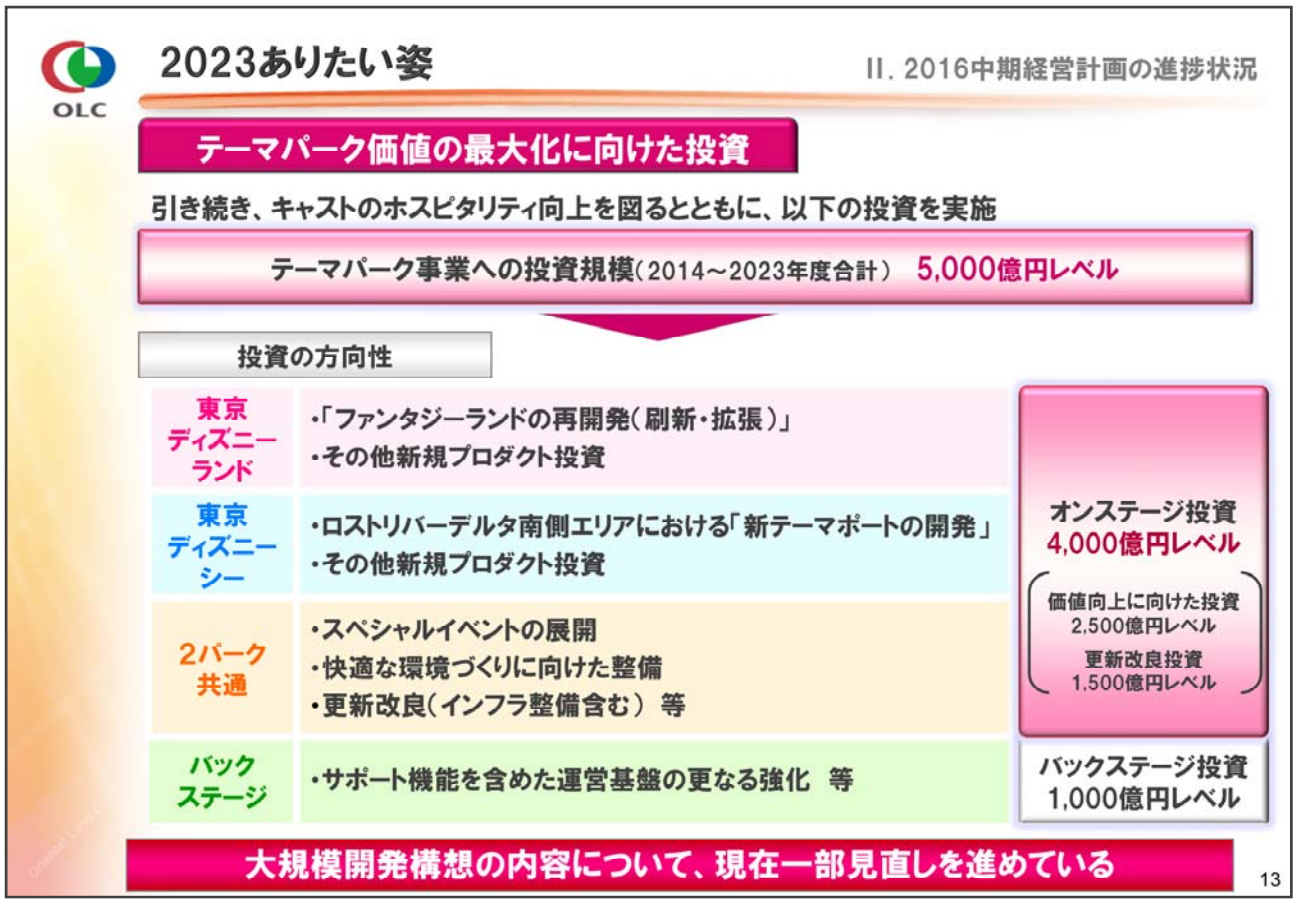
5.　<u>通期予想（業績推移）</u>

左側の「連結売上高・営業利益率の推移」のグラフにあるとおり、2016年3月期の売上高は、4,703億円で前期を上回る見込みです。

右側の「連結営業利益・当期純利益の推移」のグラフをご覧ください。
当期の営業利益は1,060億円と前期を下回るものの高い水準を維持しています。
当期純利益は722億円で、前期をわずかながら上回る見込みです。

Oriental Land Co.,Ltd.

II. 2016中期経営計画の進捗状況



「2023ありたい姿」

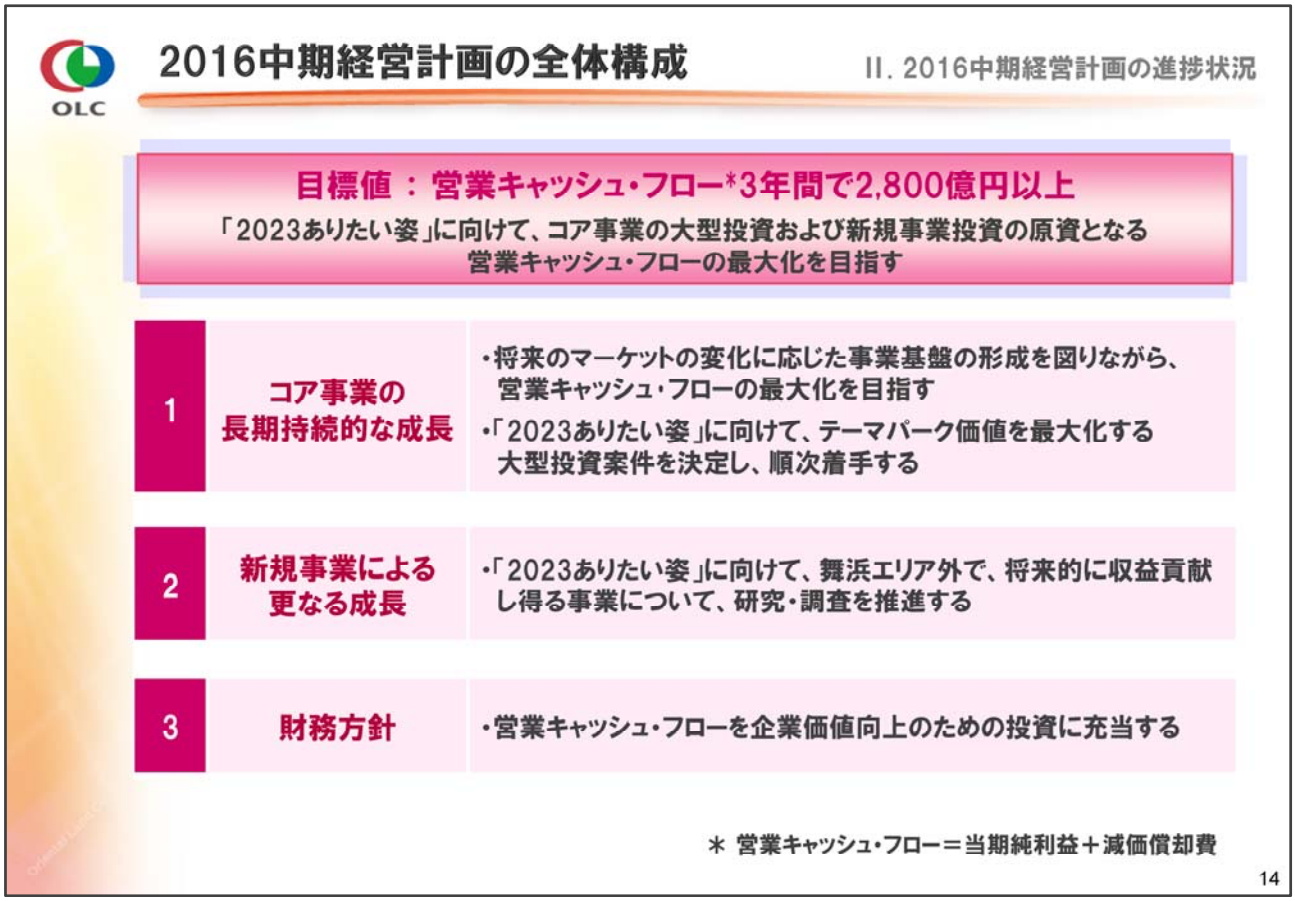
「2016中期経営計画」では、2023年に当社グループが目指す状態である「2023ありたい姿」の中で、「舞浜の土地の有効活用によるテーマパーク価値の最大化」を掲げました。当社では、その実現に向けて、2014年度から2023年度までの10年間に5,000億円レベルの投資を計画しています。

投資の方向性については、資料にある通りですが、これまで発表していた大規模開発構想の内容に関しまして、テーマパーク全体の価値の最大化を目的に、現在一部見直しを行っております。そのため、今回の決算発表において新たにお知らせする内容はありません。

現時点では、導入予定の施設やスケジュールなど、見直しを踏まえた計画全体について、2015年中にお知らせする予定です。

当社では、東京ディズニーランド、東京ディズニーシーに全く新しい価値を生み出し、パークを訪れるゲストにより素晴らしい体験をしていただけるよう、引き続き、大規模開発の検討を進めてまいります。

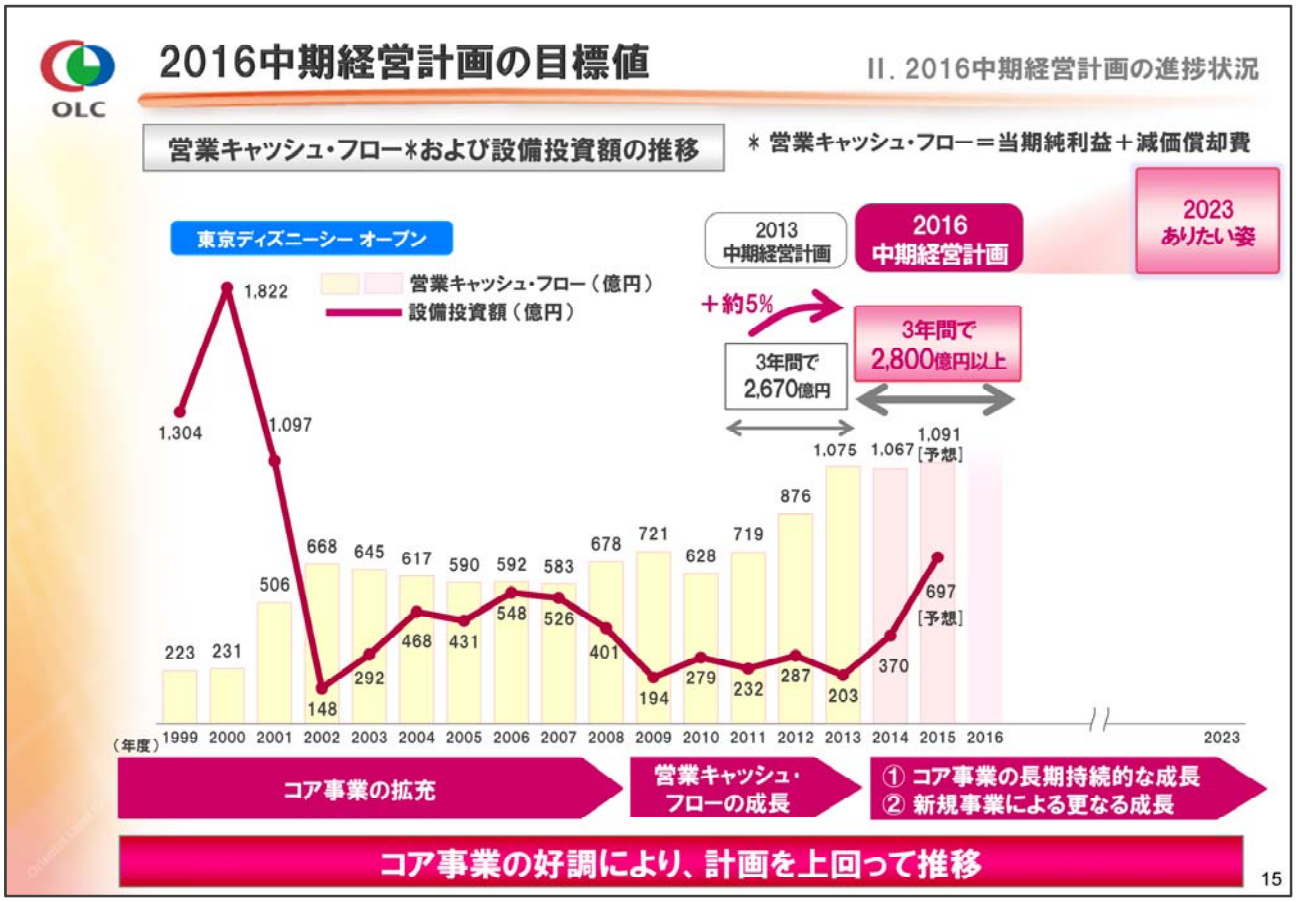
なお、大規模開発構想のこれまでの発表内容は、21ページ以降に参考資料として掲載しております。



<u>「2016中期経営計画」の全体構成</u>

目標値は、「2023ありたい姿」に向けた投資を見据えて設定しており、「3年間の営業キャッシュ･フロー2,800億円以上」の創出としております。

「2023ありたい姿」の実現のため、創出した営業キャッシュ・フローを企業価値向上のための投資に充当するという財務方針のもと、「コア事業の長期持続的な成長」および「新規事業による更なる成長」を2本柱として、取組んでいます。



「2016中期経営計画」の目標値

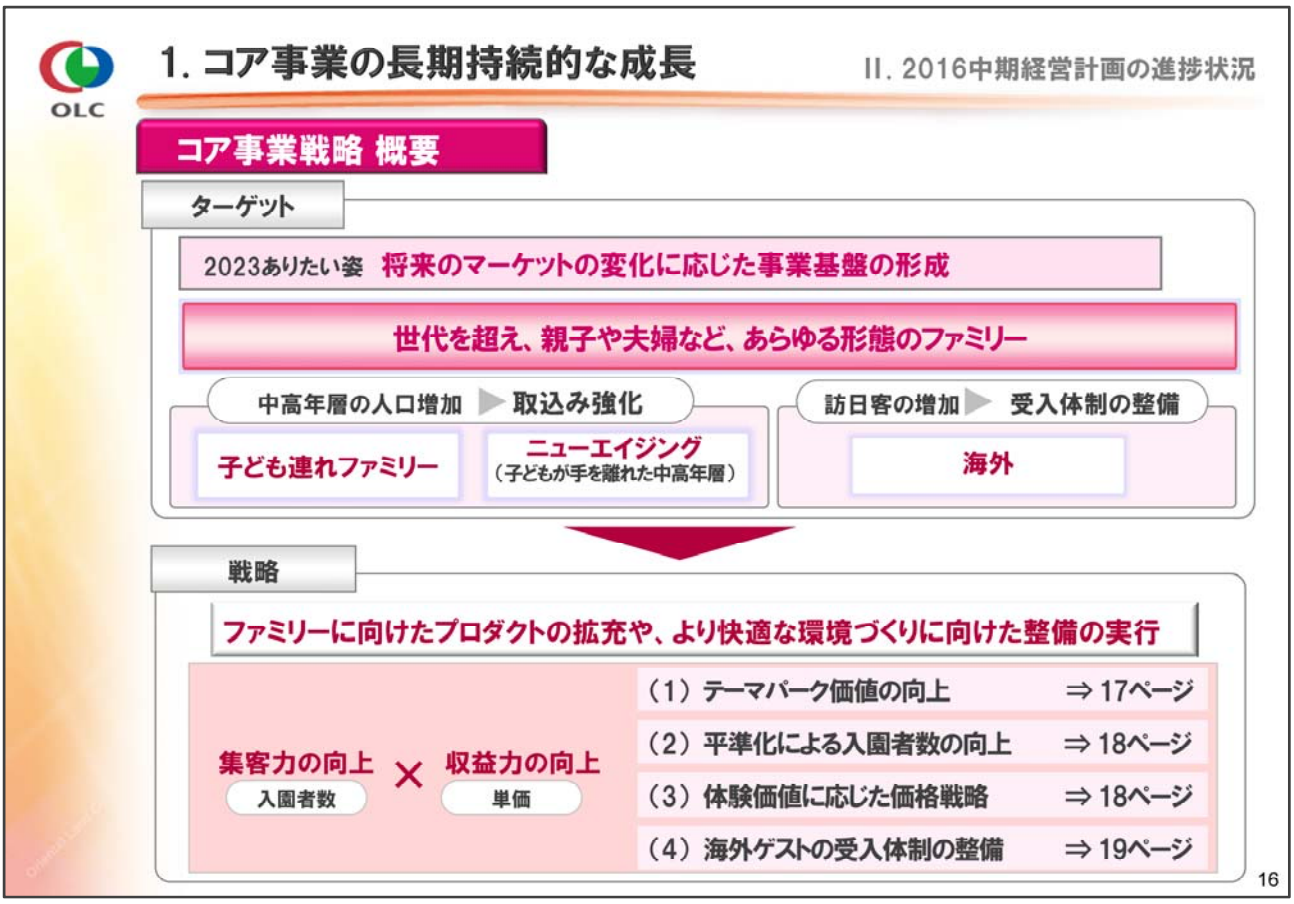
目標値の進捗状況を説明いたします。

グラフは、営業キャッシュ・フローと設備投資額の推移を表しています。

東京ディズニーシーのオープンなど、コア事業拡充のための設備投資により、営業キャッシュ・フローは、東京ディズニーシー開業以降一段高い水準で推移し、2013中期経営計画期間中の3年間では、2,670億円でした。

2016中期経営計画の3年間では、それを5%上回る目標を設定しております。

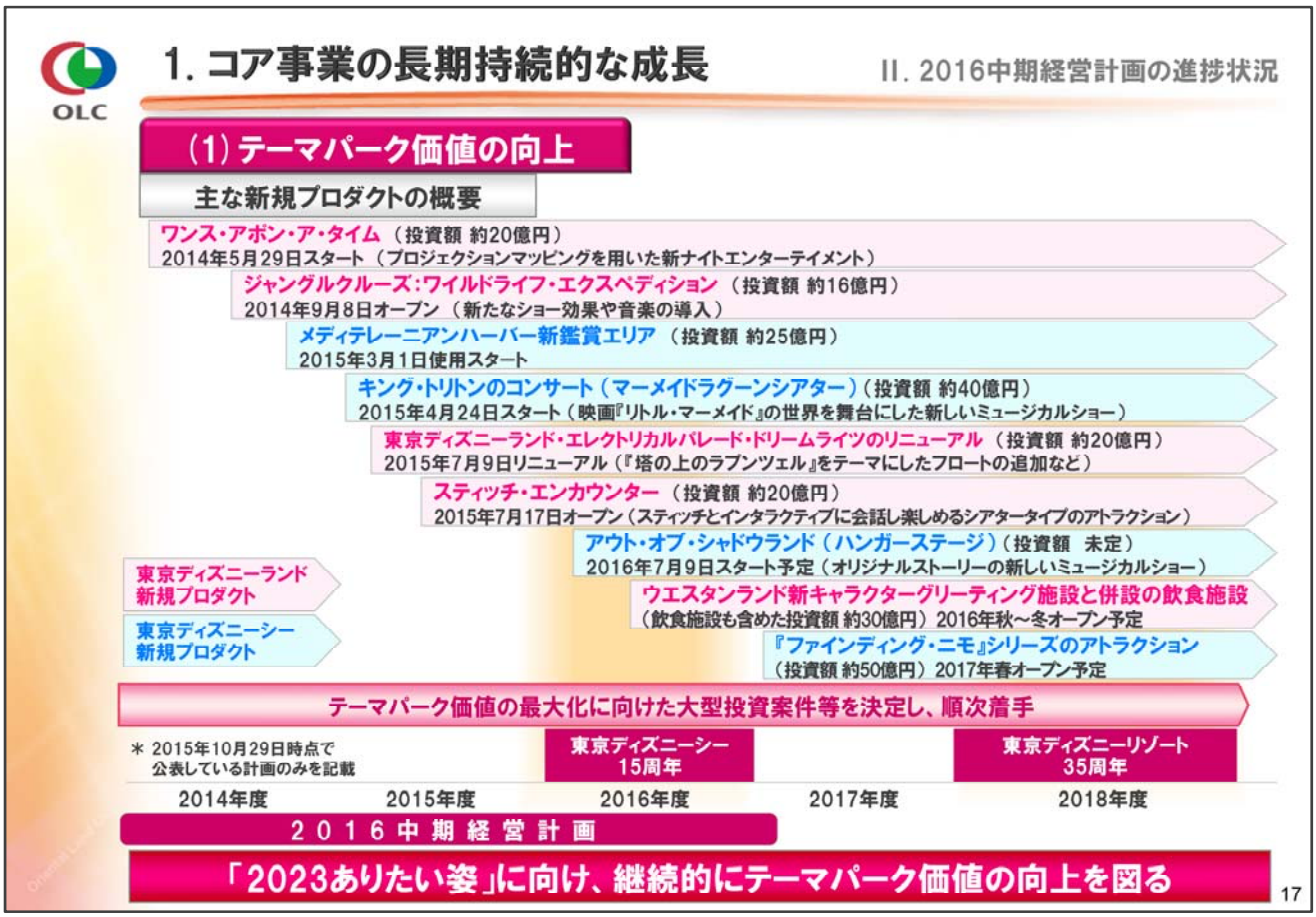
現段階では、計画を上回って順調に推移しており、2015年度は、1,091億円を見込んでいます。



1. <u>コア事業の長期持続的な成長</u>

コア事業では、長期持続的な成長を目指しており、ターゲットは、将来のマーケットの変化にも対応できるよう、幅広い意味での「ファミリー」としています。

戦略としては、入園者数の向上と単価の向上の両面から取り組んでおります。

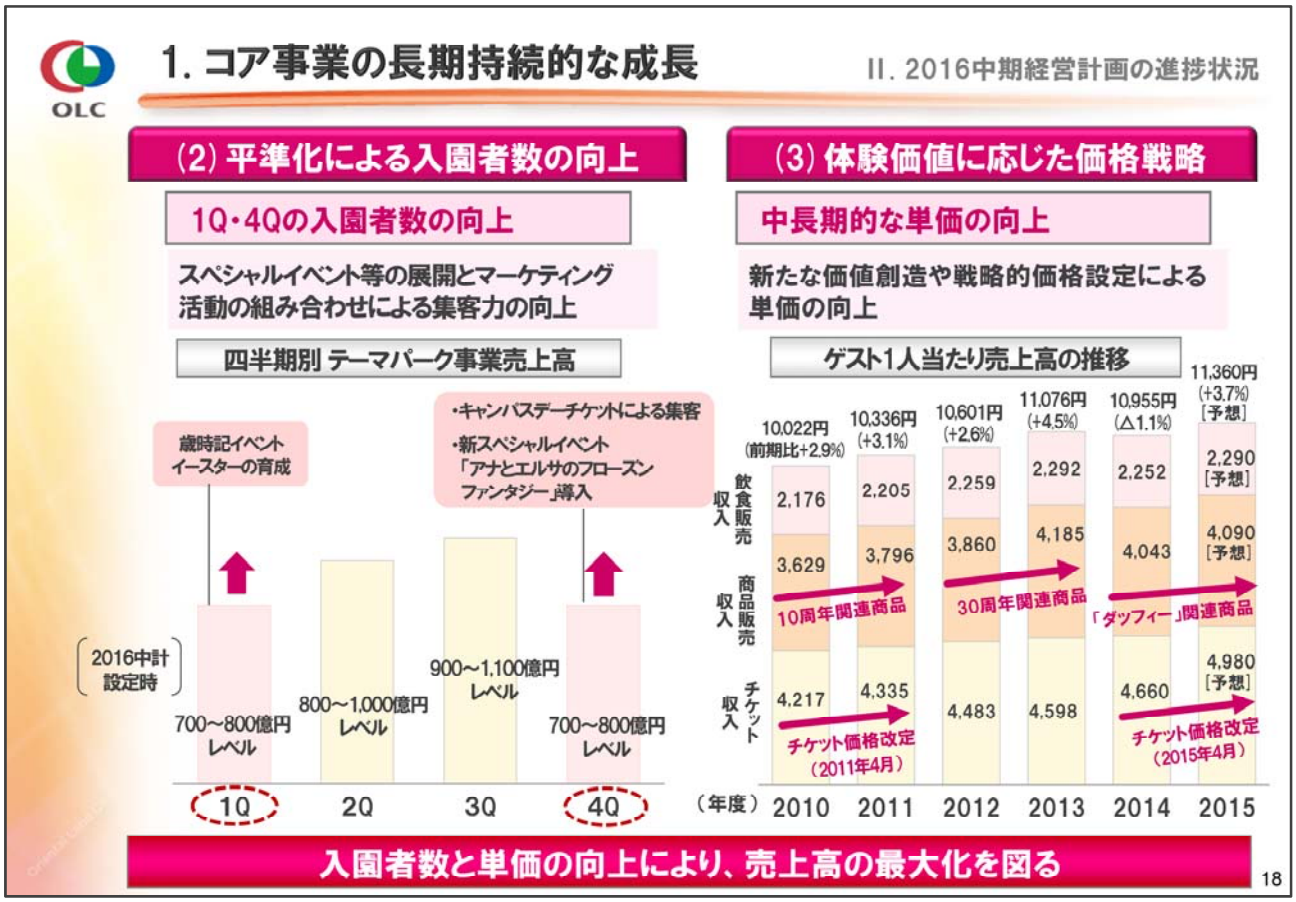


(1)テーマパーク価値の向上

「2023ありたい姿」に向け、これまで同様新規プロダクトを導入してきます。

2016年度は、東京ディズニーシーが開園から15周年を迎えることから、開園以来ご好評いただいているハンガーステージのショーをリニューアルし、オリジナルストーリーの新しいミュージカルショー「アウト・オブ・シャドウランド」を来年7月9日からスタートする予定です。

また、その翌年、2017年の春には、ディズニー映画「ファインディング・ニモ」シリーズのアトラクションがオープンする予定です。



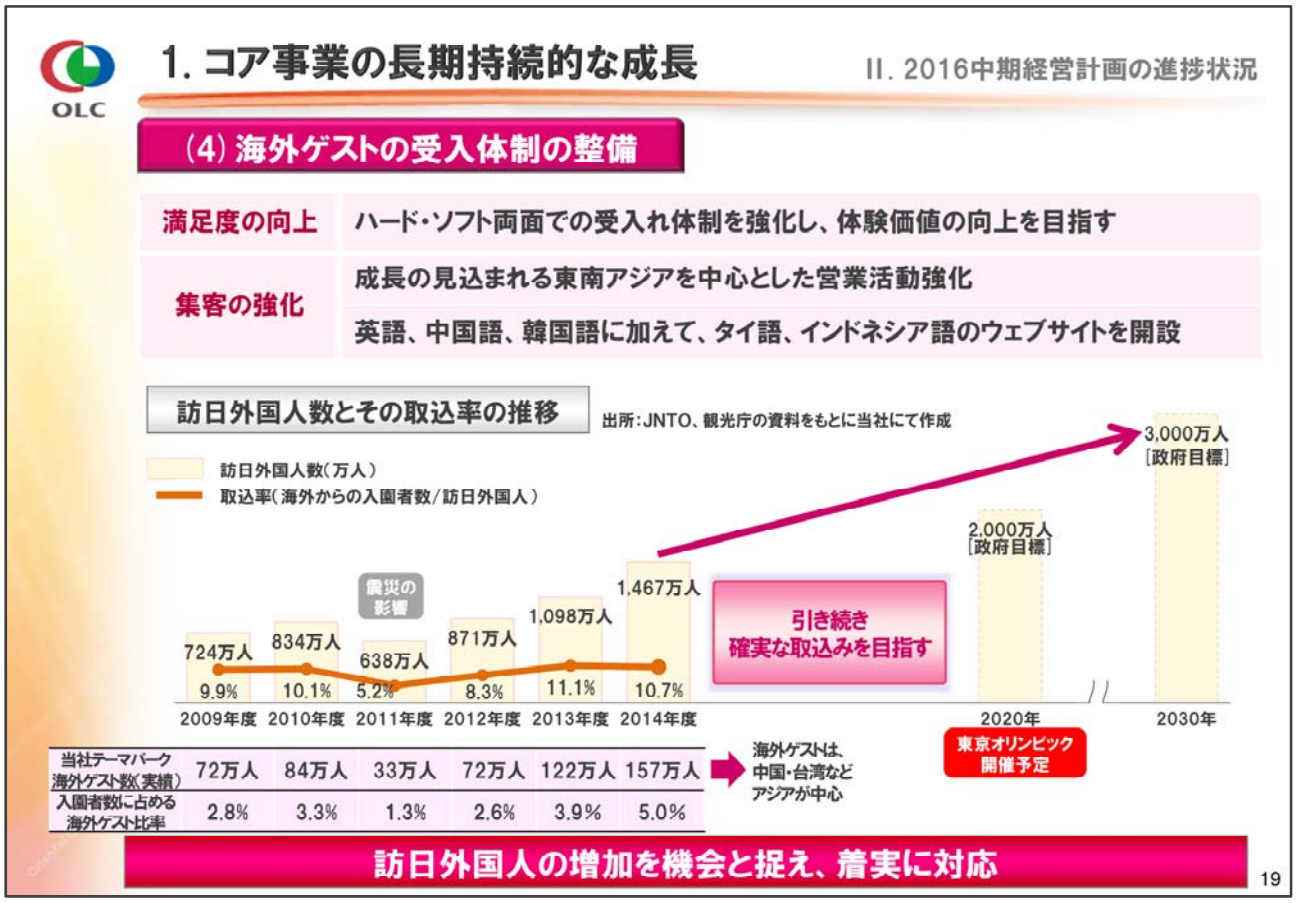
(2)平準化による入園者数の向上

当社では、第1四半期と第4四半期の入園者数の向上に取り組んでいます。
第1四半期については、イースターをテーマとしたスペシャルイベントの育成、第4四半期については、スペシャルイベント「アナとエルサのフローズンファンタジー」の導入や、キャンパスデーチケットを用いた施策により集客の向上を図っています。

前期の第4四半期には、寒い季節にもかかわらず、多くの家族連れにご来園いただいたことから、今期のキャンパスデーチケットでは、これまで中学生以上の学生を対象としていたところ、小人パスポートが必要な小学生や幼児も対象にくわえました。

(3)体験価値に応じた価格戦略

当社では、新たな価値創造や戦略的価格設定により、中長期的な単価の向上に取り組んでおります。今年4月のチケット価格の改定も、テーマパーク価値の向上を受けて実施したものです。



(4)海外ゲストの受入体制の整備

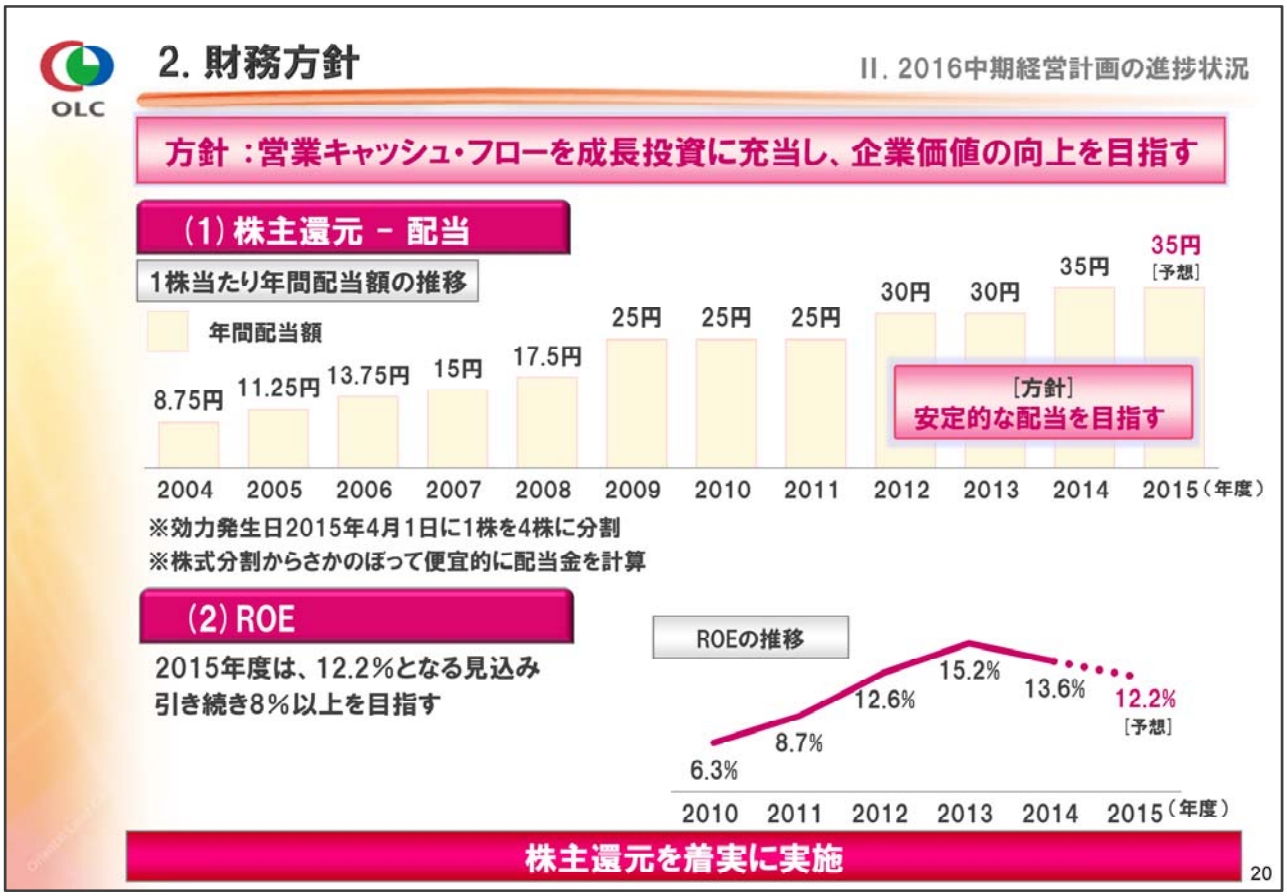
中長期的に外国人旅行者数の増加を目標とする政府の取組みもあり、日本を訪れる外国人はアジアを中心に増加していますが、東京ディズニーリゾートでも同様の傾向です。

当上半期における海外ゲスト比率は、6.2%でした。

中国や台湾などアジアを中心に入園者数が増加しています。

ウェブサイトでは、今年8月から、英語、中国語、韓国語に加えて、タイ語、インドネシア語のウェブサイトを開設しました。

当社では、外国人旅行者数の増加を機会ととらえ、今後とも集客強化に向けた取り組みを進めてまいります。



2.　財務方針

当社では、創出された営業キャッシュ・フローをコア事業や新規事業の成長へ向けた投資に充当し、企業価値を向上させる方針です。

(1)株主還元ー配当

2015年度の配当については、「外部環境も勘案しつつ、安定的な配当を目指す」という方針のもと、当期は、期初予想どおりとなる年間35円となる見込みです。

(2)ROE

ROEについては、2015年度は、12.2%を見込んでおります。

今後も、当社は株主還元を着実に実施するとともに、営業キャッシュ・フローの成長による企業価値向上を目指してまいります。

Oriental Land Co.,Ltd.

【参考資料】

※ これまで発表した「両パークの大規模開発構想」の資料を参考として掲載しています。
内容については、現在一部見直しを進めています。

OLC

2023ありたい姿

【参考資料】

両パークの大規模開発構想

東京ディズニーランド「ファンタジーランドの再開発（刷新・拡張）」		東京ディズニーシー「新テーマポートの開発」	
概要	大型アトラクション、商品店舗、飲食店舗等、複数の施設からなるファンタジーランド全体の再開発	概要	大型アトラクション、商品店舗、飲食店舗等、複数の施設からなる新テーマポートの開発
テーマ	ディズニー映画「美女と野獣」、「ふしぎの国のアリス」等をテーマとした複数のエリアで構成	テーマ	「北欧」をテーマとした新テーマポート ※ディズニー映画「アナと雪の女王」の世界を体験できるエリアも含む
導入時期	2017年度以降	導入時期	2017年度以降
開発エリア	現在のファンタジーランド全域（刷新）、およびトゥモローランド、駐車場、バックステージの一部（エリア拡張） ※現在のファンタジーランドが約2倍となる規模	開発エリア	ロストリバーデルタの南側に隣接する拡張用エリア ※アラビアンコーストとほぼ同規模

東京ディズニーランド 「ファンタジーランドの再開発」イメージ

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

東京ディズニーランド 「ファンタジーランドの再開発」イメージ

「美女と野獣」をテーマとしたエリア

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

東京ディズニーランド 「ファンタジーランドの再開発」イメージ

「ふしぎの国のアリス」をテーマとしたエリア

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

東京ディズニーシー「新テーマポートの開発」イメージ

「北欧」をテーマとした新テーマポート

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

2023ありたい姿

【参考資料】

快適な環境づくりに向けた整備

方向性	・ゲスト満足度向上に向けたサービスレベルの向上

具体例

・ショー鑑賞エリアの再整備
・レストランの更なる充実
・サービス施設の快適化
・IT環境の再整備　　等を検討・実施

サポート機能を含めた運営基盤の更なる強化

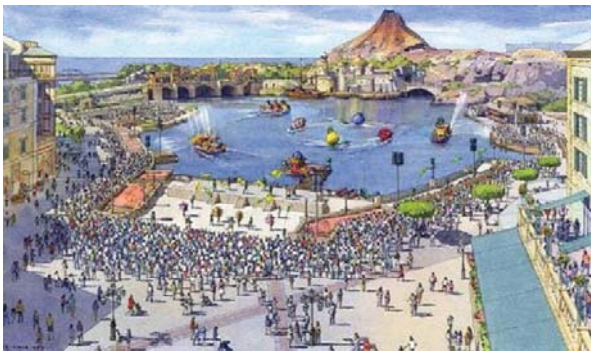
方向性	・入園者数レベルとゲストサービスの最大化に向けたサポート施設の拡充 ・サポート施設の移設による事業用地（テーマパーク用地含む）の創出

具体例

・ロジスティックスセンター、セントラルキッチンの近隣所有地へ移設及び拡充
・事務部門の一部機能を近隣所有地へ移転　　等を検討・実施

ショー鑑賞エリアの再整備、レストランの更なる充実の事例

ショー鑑賞エリアの再整備の例



東京ディズニーシーのメディテレーニアンハーバーにおけるショーの視認性の向上および鑑賞エリアの拡大（2015年3月1日より使用開始）

レストランの更なる充実の例

パレード鑑賞ができるレストランの導入などを検討

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

Oriental Land Co.,Ltd.

株式会社オリエンタルランド　経理部IRグループ
www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではございません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。

本資料の転載はご遠慮ください。